

金山の未来 「ここから」はじまる



▲「(株)ここから」の社長に就任した川崎恭平さん(39歳)。町への訪問客増加のため多彩な事業展開を考える。

有する既存の財産を磨き上げ、金山町を「永続できる故郷」にするべく、まちづくり会社『ここから』が10月5日、設立されました。町を取り巻く環境の変化、人口減少を前に8名の有志が発起人となり、川崎恭平さん(十日町)が社長に就任。行政に過度に頼らず、民間だからできる事業を展開するとしています。

事業内容は、町なかでの宿泊施設の整備、街並みの案内、視察の受け入れ、飲食の手配をはじめ、各種イベントの開催、映画ロケ地の誘致な

ど多岐にわたります。いずれも金山へ訪れる人を増やし、単なる通過点でなく、長時間の滞在と町内での消費を促す仕組みをつくろうとする取り組みです。

川崎社長は「町の皆さんのおもてなしの精神は素晴らしい。それに加え、我々自身が金山の魅力を再自覚し、適切に対価を得られる仕組みをつくり、広げたい」と意気込みます。主となるのが、町なかの質の良い遊休建築を活用したホテル事業。宿泊棟を点在させ、町全体をホテルに見

立てる構想で、来年の4月にも着工する予定とのことです。

さらに、「金山の魅力は文化的であること」と力を込めます。事業での収益は子どもたちの教育に還元する考え。「町なかに誰でも無償で学べる場を創りたい。子どもが自然に英語を話す町を目指す」と続ける新社長は未来を見据えています。

町民と来訪者が共に望む金山を目指して——。一步ずつ着実に、新たなまちの未来が「ここから」始まろうとしています。

文化庁
地域文化創生本部
主任研究官
佐々木雅幸さん



キーワードは文化都市の創造

(株)ここからの設立を記念して、創造都市研究の権威である佐々木雅幸さんによる講演会が開催されました。

演題は「創造農村金山を目指して」。佐々木さんは「市民一人一人が創造的に、働き、暮らし、活動する都市」と創造都市を定義し、ドイツの環境創造都市フライブルクや古き良き景観の形成を推進する金沢市など、国内外の取り組み事例を紹介されました。

「金山町でも30年以上も前景観施策に着手している。創造都市ネットワークの輪に入り、その文化に磨きをかけるべきだ」。佐々木さんは町の取り組みをそう評価し、課題についても示唆されました。